

令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【中島小学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	全体的には、授業やその他の活動を通じ、基礎的・基本的な知識・技能を高めることができた。一方で、正答率の分布を見ると2つのグループに分かれる傾向が見られるなど、知識・技能の定着には個人差が見られる。中位～下位の児童の基礎的・基本的な知識・技能を高める方策を講じるとともに、上位のグループの発展的な学習を用意するなど、児童一人一人に最適化された学習課題の設定が必要である。
思考・判断・表現	全体的には、授業やその他の活動を通じ、児童の思考力・判断力・表現力を高めることができた。一方で、正答率の分布を見ると2つのグループに分かれる傾向が見られるなど、取組には個人差が見られる。授業やグループ活動を通して、より幅広い児童の意見や考えが反映される授業の工夫や活動の設定が必要である。
主体的に学習に取り組む態度	全体的に児童は学習に対して高い意欲をもって取り組んでいる。一方で、各教科の学習内容が「わかる」、各教科の学習が「好き」といった項目では課題が見られた。学習課題の設定の工夫など、児童の学習に対する主体性を高める取組とともに、スモールステップで「分かる」を実感させる学びなど、授業の工夫・改善を続ける必要がある。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	令和5年度市学習状況調査(国語・算数)「知識・技能」で市の平均を上回る。(令和5年度全国学力・学習状況調査(国語・算数)「知識・技能」で全国平均を上回る、または令和4年度の本校結果を上回る)	⇒ 高学年において、算数や理科など教員の専門性を活かした教科担任制を実施する。学級担任と連携し、少人数指導やT・Tを行い、個に応じた指導を行う。「家庭学習の手引き」や業前時間の活用を推進し、家庭と連携しながら、自分の学びを振り返り、自己の課題に合わせ、計画を立てて学習できるようにする。
思考・判断・表現	令和5年度市学習状況調査(国語・算数)「思考・判断・表現」で市の平均を上回る。(令和5年度全国学力・学習状況調査(国語・算数)「思考・判断・表現」で全国平均を上回る、または令和4年度の本校結果を上回る)	⇒ 研究の視点に「各教科における見方・考え方を働かせることのできる学び合いの工夫」を設定し、思考力・判断力・表現力等を高める学習指導の工夫に全校で取り組む。一例として、思考の流れや過程が分かるようにワークシートに記述で表現させて、その都度評価するなど、効果的な指導方法を研究する。
主体的に学習に取り組む態度	令和5年度市学習状況調査(生活調査)において、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答を90%以上にする。	⇒ 児童とともに、学習のねらいを明確にし、導入の工夫により、必要感のある課題を設定した授業を展開する。振り返りや次時の活動に見通しをもたせる時間を確保する。授業間の10分の休み時間を有効に活用し、児童が授業に集中して取り組めるようにゆとりをもって指導する。

<小6・中3>(4月～5月)

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	令和5年度全国学力・学習状況調査(国語・算数)「知識・技能」の正答率は、全国平均を2.5～4.4ポイント上回っている。令和4年度との比較においても上回ることができた。	A
思考・判断・表現	令和5年度全国学力・学習状況調査(国語・算数)「思考・判断・表現」の正答率は、全国平均を2.9～5.6ポイント上回っている。令和4年度との比較においても上回ることができた。	A
主体的に学習に取り組む態度	令和5年度市学習状況調査(生活調査)において、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答は85%であった。市の平均90%および昨年度の本校に平均92%におよばず、課題を残す結果となった。	B

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	令和4年度の自校の結果と比較すると、国語0pt、算数+2ptとなったが、全国との比較では国語・算数の多くの項目で平均を上回る正答率となっている。国語における「情報と情報との関連付けや関係の表し方の理解」や、算数における「伴って変わる2つの数量の関係の理解」など、異なる2つ以上の情報を合わせて検討する設問に課題のある児童がみられた。
思考・判断・表現	令和4年度の自校の結果と比較すると、国語+3pt、算数+1ptとなったが、全国との比較では国語・算数の多くの項目で平均を上回る正答率となっている。国語における「必要な情報を見つけ、情報の理解に基づき自分の考えをまとめる」といった情報の扱いに関する項目、算数における「伴って変わる2つの数量の関係の処理」といった「変化と関係」領域に課題のある児童がみられた。
主体的に学習に取り組む態度	目標の設定項目ではないが、同程度の設問「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」(現6年生に対する調査)では、肯定的な回答が91%となるなど、児童の学習に対する主体的な姿勢が感じられる結果となった。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④ さいたま市学習状況調査結果・分析			
※令和5年度のさいたま市学習状況調査結果は参考値扱いとなります。			
小3	国語において、特に「話すこと、聞くこと」について課題が見られた。算数において、わり算など計算の仕方がしっかりと身に付いている一方、球の特徴など図形に関する学習に課題が見られた。また、児童に対する各教科の好感度(好きですか)の設問でやや低い数値が見られる。各教科を楽しめるような授業の工夫・改善が必要である。	小4	国語において、「話すこと、聞くこと」および「読むこと」などの正答率が高くなるなど、学習に対する積極的な姿勢が学習の効果を高めている。算数において、多くの領域で高い正答率を示すなか、図形に関する学習には課題が見られた。他学年に比べ読書に対する関心が高く、読書習慣が身に付いている。
小5	国語において、多くの領域で高い正答率を示すなか、「言葉の特徴や使い方に関する事項」について課題が見られた。普段から言葉の使い方や語彙を増やす活動を増やす必要がある。算数では、多くの領域で高い正答率を示す一方で、教科の理解に関する設問(よく分かりますか)ではやや低い数値が見られる。児童に「できた」と成果を感じられる授業の工夫・改善が必要である。	小6	国語において、多くの領域で高い正答率を示すなか、「書くこと」について課題が見られた。形式の違う文章や、文の短長などさまざまな文を書く経験を積む活動の工夫や、適切な読書習慣の定着が必要である。算数では、「数の計算」において高い正答率を示す一方、他の領域では課題が見られる。また、教科の理解に関する設問(よく分かりますか)でも低い数値が見られる。児童に「できた」と成果を感じられる授業の工夫・改善が必要である。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	変更なし	⇒ 全国学力・学習状況調査の結果から、情報処理に関連した設問に課題がみられたため、情報の関連付けや比較検討といった、複数の情報を扱う学習場面や機会を多く設定する。
思考・判断・表現	変更なし	⇒ 全国学力・学習状況調査の結果から、情報処理に関連した設問に課題がみられたため、情報の関連付けや比較検討といった、複数の情報を扱う学習場面や機会を多く設定する。
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒ 毎時間の学習において、教師等のフィードバックを個々の児童に行い、児童の学習に対する関心・意欲を持続できるように努める。